



本多紗智



初瀬健太



前田美沙



篠田大樹



片山素晴

# 素晴らしい暮らし

～天龍村人始めました～

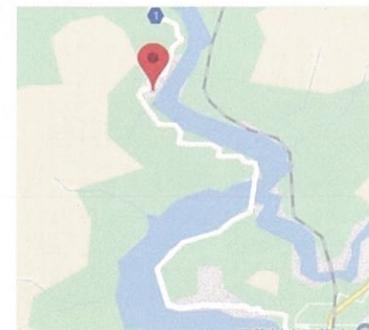
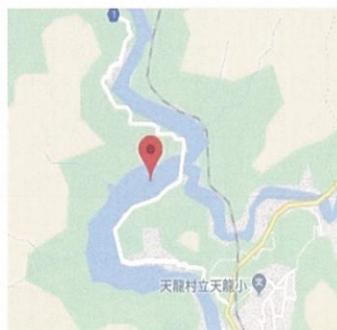
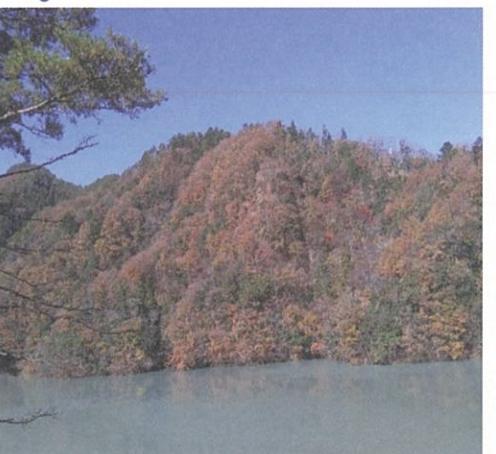
始めまして。この度、地域おこし協力隊として、農林業公社に着任した片山 素晴(もとはる)です。名前負けしている感は否めないのですが、名が体を表せるよう日々精進してまいります。

今回は、村外から来た者がどんな人間なのか不安な方もいらっしゃるかと思いますので、簡単ではございますが自己紹介をさせていただきます。

出生地は広島県の呉市で、昔は造船で栄え大和ミュージアムがある地域です。高校卒業後は、20年ほど大阪で働き、転勤で神奈川で5年勤めました。主な仕事はシステムオペレータとシステム運用です。

地域おこし協力隊に応募した主な理由は、多くの自然に囲まれて生活を送りたいとの思いからです。これから季節も変わり、様々な景色が見られると思うと楽しみです。時間が空いた時は、村内を探索していますので、お会いした時はお話しさせてください。

## 今月のスポット



## ゆらゆら変遷紀～天龍村ver.～ 初瀬健太

農閑期です。天龍村にきてから二度目の冬。枝先から、一枚の葉がゆっくりと落ちて、かさつと小さな音を立てるような日々を過ごしています。冬の木々がお地蔵様のごとくじつと目を瞑り、ただすべてを受け止めるだけの存在になると、村全体も音もなく静かにゆっくりと呼吸をしているように感じられます。季節によつて空気の流れかたが大きく変わるのには、山と共に天龍村ならではの特性ですかね。

気温の変化だけではなく、それに応じて山林の色合いが移り変わり、花々も順を追つて色をつけ、田畠をもつ人々の、毎年のように同じ時季に野菜やお米をつくる営みなどがその季節の背景となつているかなと。一匹の生きものとして感じられるくらい有機的である天龍村は、貴重な場所に映ります。

そんな秘境で農に携わると、冬場はどうしてもんびりしがちです。南端ではあるけれど、長野県だけあって朝晩は冷え込むし、山に遮られて陽が顔をだす時間が限られているので、その気候と地形、あと雰囲気にしようがないと甘えがちになってしまいます。北海道のような極寒の地であれば、冬場をゆっくりと過ごすのは当然のことですが、南信州の気候であれば、十二月もまだまだ働けそうです。

それでも、いまは農を生業としているわけで、任期後のことを考えながら必要なことにも手を出していくだと考へています。農閑期は、なんだかんだ残すところ一年ちょっととなのではなく、地域おこし協力隊という立場であるでなければできないこともあるし、これから活動をより良くするためにスキルを身につけて感じられるくらい有機的である天龍村ならではの特性ですかね。

## 布団かう出られない十一月

農閑期です。天龍村にきてから二度目の冬。枝先から、一枚の葉がゆっくりと落ちて、かさつと小さな音を立てるような日々を過ごしています。冬の木々がお地蔵様のごとくじつと目を瞑り、ただすべてを受け止めるだけの存在になると、村全体も音もなく静かにゆっくりと呼吸をしているように感じられます。季節によつて空気の流れかたが大きく変わるのには、山と共に天龍村ならではの特性ですかね。

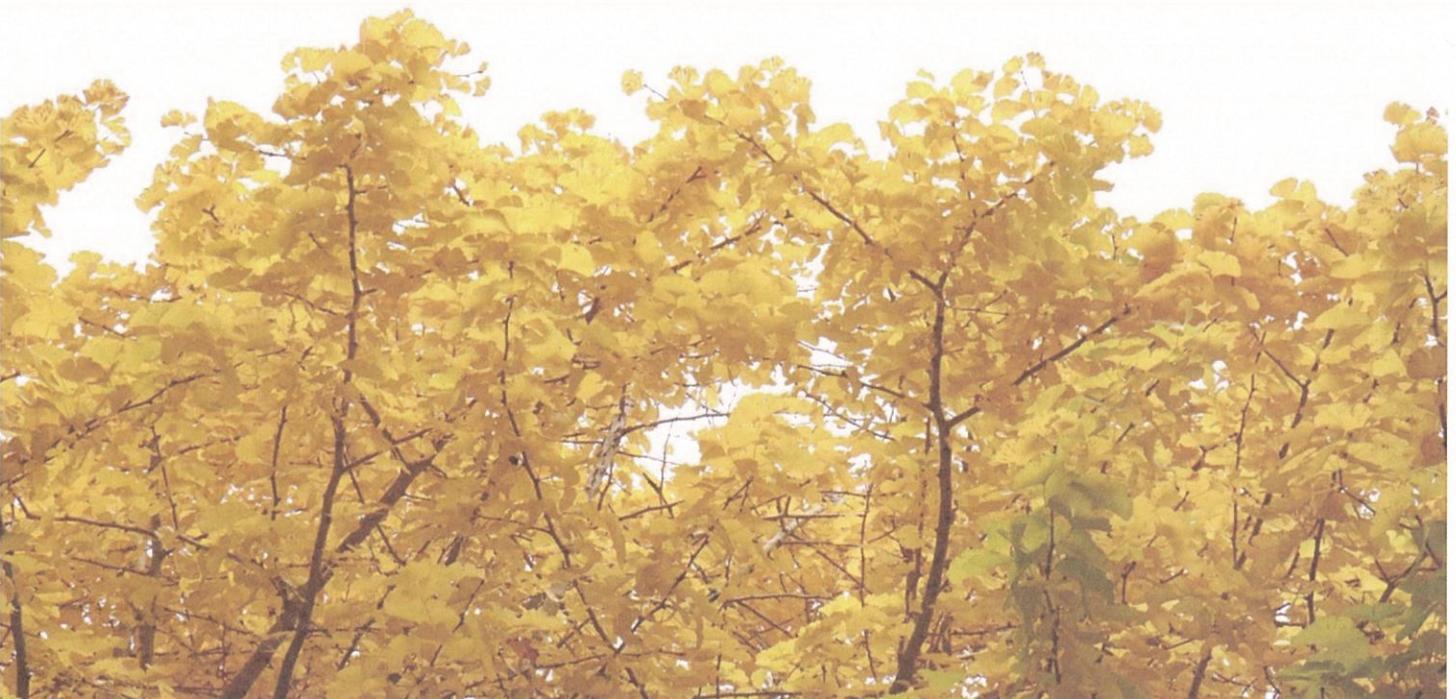
気温の変化だけではなく、それに応じて山林の色合いが移り変わり、花々も順を追つて色をつけ、田畠をもつ人々の、毎年のように同じ時季に野菜やお米をつくる営みなどがその季節の背景となつているかなと。一匹の生きものとして感じられるくらい有機的である天龍村は、貴重な場所に映ります。

人によって、地域おこし協力隊のあるべき姿というのは百人百様だと思います。制度自体が大雑把なため、各自治体によつても、各々に違うとどちらも取り逃しそうなので、来シーズンに向けた準備をメインに今後の活動に役立つスキルを磨ければと思います。

常に色濃くでてしまします。できれば、冬場も農繁期と同じエネルギーで活動するのが理想ではあります。僕のいまのスキルでは「一兎を追う」とどちらも取り逃しそうなので、来シーズンに向けた準備をメインに今後の活動に役立つスキルを磨けばと思います。

なので、「ニ」まで新聞を読んで、ただければわかると思いますが、先月から特に活動のことでは書いていません(笑)正直に言うと、何を書こうか締切の一週間くらい前から頭を悩ませています(笑)

あ、そういうえば今年のお米(コシヒカリ)も一等米でした。夏場に一時期のあいだ離れたのでも、嬉しいというよりもホッとした気持ちでいます。精米するまでヒヤヒヤしてました。あきはたこまちは斑点米が多くつたので、多くの数量は用意していませんが、公社でぜひお買い求めください。大河内のキレイな山水でじっくり育ったお米は美味しいですよ。ホントに。



十一月の活動

十一月の活動は農林業公社の業務として柚子とりや、ていざなす等の圃場の片付け、サニーレタスの定植などを行いました。

また、中井侍の芋フェスやその反省会にも参加させていただき、地域の方々とも交流することが出来ました。その中でお茶農家さんの高齢化や後継者不足といった解決が迫られる問題があることを再認識しました。自分が管理出来る茶畠の範囲はまだ多くはないと思いますが、早く力をつけて篠田に任せれば安心だと言つてもう見えるようになりたいと思います。また高級路線での販路拡大やお茶の摘み手の確保など、取り組むべきところは多いので出来るところからしつかり取り組んで行きたいと思います。

その他の活動としては野菜の加工品の可能性を探るべくピクルス製造や販売の講習を受講しました。野菜をそのまま販売するのに比べピクルスに加工して販売することで何十倍の値段で売ることが出来ます。また、賞味期限も半年以上あるので賞味期限切れで廃棄になるというリスクは少なく、在庫管理しやすいところも利点です。教えてもらつたピクルスの作り方は簡単でしたが、希望する価格（一五〇円七〇〇円）で販売することが難しいように感じます。普段の家庭用と/orより、お土産や贈答品として売り出す」とことで手を出しやすい価格になるので見た目や素材にもこだわる必要があると思います。天龍村のピクルスとすべく、ていざなすでも作つてみましたが見た目はあまり良くないので改良が必要かと思ひます。

また、ゆずはピクルスと相性が良いようなので、うまく活用したいと思います。まだまだ試行錯誤が必要かと思いますが天龍村のピクルスとして売り出せる商品が出来るように頑張りたいと思いま



刻々天龍村 謹走だより 記・本多紗智

「…んにちは。どうとうコタツを引っ張り出し、冬が  
来たことを実感しています。平成に始まり令和に  
終わる今年も間もなく終幕です。以前、とある地  
区の道つくりの際に聞いた「年号が変わつても」の  
山の中じや関係ないね」という一言が未だに忘れ  
られません。

知り合いが一人も居ない状態で天龍村へやつてきて、来年二月には二年が経とうとしていますが、訪問や人からの紹介、地域行事への参加などを重ねるうちに、すこしずつ知っている顔が増えてきたなあと思うと、感慨深いものがあります。村の方の話をまとめた冊子も、ようやく三冊目が完成しました。

都会にいる頃は、それこそ隣人の顔も知らず、日常的に地域の住民と交流することなどちよつと考えられない話でしたが、都会を離れて日本各地の色々な田舎に住んだり、滞在しながら色々な人達と交流を重ねる中で、人間関係の基礎をゆっくりと学びなおしているような思いでいます。

初めて訪れた場所では、民宿のオーナーが好意で地元ガイドをしてくださいました。現地の方と交流する中で、普通の旅行では絶対に経験できない出来事が怒濤のように起こりしばらく頭の整理ができない状態でした。天龍村にも言えることで、その土地の人を知らないと絶対に分からぬい面白さや奥深さこそが田舎の強みだと痛感した数日間でした。

文：前田美沙

変えずに守つていくべき一番大切なものは何なのか。多少の痛みはあれど、未来に残すために変えていくべきものは何なのか。人口減少を当然のこととして受け止めた上で出来ることは何なのか。そんなことを色々と考えさせられた実りある旅でした。



## えだの天龍山墓らし～入門～

急に冬がやつてきたように寒くなつて、薪ストーブが欲しいな」と、毎日のように思つてしまします。

さて、外での作業が落ち着いてきて最近は何をしていたかと言いますと、パソコンの前にいたり会議に出たり、何かを試作してみたり文章を考えたりと、室内にいることが多いつたです。

「月刊茶」という茶の専門誌があるので、が、縁あってそこで私の活動と中井侍茶についての事をまとめた2ページほどのコラムを書かせて頂きました。

市販されていない定期購読雑誌なので、また文章を載せる機会があつたら紹介させて頂けたらと思います。

まだ茶に携わつて間もないのに、私が書いてもいいものか迷つたのですが、「地域おこし」協力隊から見たお茶」というテーマでこれまで色々な地の協力隊員が文章を載せていて、それがとても面白かつたので振り返りも含めて思い切つて書いてみました。

自分のやりたい事、地域の事、日々お世話になつてゐる事、色々なことを振り返りながら考え方をまとめる事ができてとても良かったです。

あと、最近で一番緊張した出来事なので、すが、長野県知事とお話をさせて頂く機会がありました。阿部知事と話した一番の感想はすごく「頭がいい人だな」とでした。（我ながら頭の悪い感想ですが）

本当に終始そう感じる知的な方でした。

阿部知事とも、中井侍茶の魅力や現状、今後どのように県単位でサポートできるか等についての話し合いをさせて頂きました。

難しい話をしながらもその場で中井侍茶を淹れたのですが、「本当に美味しい」と言つて頂けたのが一番嬉しかつたです。



知事室で振る舞うお茶を中井侍茶にしてくれるという確約を得たので、知事や来庁者の方にも毎日飲んでもらって健康長寿になつてもらえたらと思います。

後継者問題や畠をどう維持していくか等、まだまだ課題解決とはいきませんし、私が役立てるることはほんの僅かしかありませんが、自分なりにできる事からひとつひとつ取り組み続けた先に何か新しい可能性があると思っています。

沖縄で農業を教えてくれた方がよく、「慌ていーるなーか、よんなーどー」(急いでいる時も慌てずゆっくりと)という感じの言葉を使っていたのを最近よく思い出します。

急がば回れ、視野を広くして今後も行動していきたいと思いま